

歴史地名めぐりコース

標柱番号と地名・説明

1 鍛冶町 [かじまち]

天正 16 年（1588）、松ヶ島より移った町で、概ね駅前通りから油屋町までの約 150 メートルの町筋を指す。鍛冶職人が多かったことに由来する町名で、近世の地誌は高橋、横山、西村の 3 名の鍛冶頭とその系譜を記している。現在は日野町に属する。

2 八雲小路 [やくもしょうじ]

参宮街道から八雲神社前に至る約 130 メートルの道筋の名称。江戸時代にはこの道はなく、明治 26 年の松阪大火以後に新しくつけられている。なお、元禄 3 年（1690）の大火によって焼失するまで、清光寺がこの辺りにあった。

3 櫛屋町 [くしやまち]

湊町筋と湯屋町筋との間、約 125 メートルの小路に沿う町で、天正 16 年（1588）に松ヶ島より移ったという。櫛職人が集住していたことに由来する名称というが、18 世紀末成立の地誌はその職も今は絶えたと記す。現在は日野町と湊町とに属する。

4 油屋町 [あぶらやちょう]

鍛冶町の南に続き、薬師小路までの約 110 メートルの町筋を指す。天正年間に百姓が 5～6 軒居住したところから成立した町という。薬師小路と交差する東の一角に天南寺という禅宗寺院があった。現在は湊町に属し、町名は町内会名として存続している。

5 薬師小路 [やくししょうじ]

参宮街道と油屋町筋との間、約 120 メートルの小路をかつては指していたが、現在は拡幅されて市街地の幹線道路の一部となっている。中ほど北側に開眼寺があつて、昔、山の薬師と呼ばれていたために、それが小路の名称になったと近世の地誌は記す。

6 平生町 [ひらおまち]

天正 16 年（1588）、飯高郡平生より移された町で、塩屋町筋と参宮街道とが交差する地点より愛宕川までの街道を指した。昭和 26 年の大火後の都市計画事業で、街道は広がり、川筋もつけ替えられている。江戸時代は旅宿の多い町であったという。

7 愛宕町 [あたごまち]

愛宕川（大火後に西へ流路を変更）から菅相寺に至る交差点までの参宮街道筋 約 180 メートルの町名で、愛宕山龍泉寺の山号に由来するという。『宝暦晰し』に升屋、桑名屋という遊郭をあげているように、当町及び南に続く垣鼻町付近には遊所が集中していた。

8 清滝町 [きよたきちょう]

龍泉寺門前と清生町に至る道筋との間、約 165 メートルの町筋を指し、元禄頃の近世城下図にその名が見える。本居宣長の『松坂勝覧』は京の愛宕の清滝を移した町と記す。現在は愛宕町に属するが、この付近の街路は大火後の都市計画により大きく変貌した。

9 塩屋町 [しおやちょう]

平生町の参宮街道筋より来迎寺裏門までの約 160 メートルの小路に沿う町筋を指す。町名の由来は古く塩を商う店屋があったことによると考えられるが、その詳細は不明と近世の地誌は記す。明治初年、湊町の一部となり、現在に至る。

10 湊町 [みなとまち]

日野町から平生町までの参宮街道筋の町名。城下建設の際、伊勢大湊より職人を誘致して成立した町という。移住した職人に角屋七郎次郎があり、次男七郎兵衛は寛永 8 年（1631）21 歳で安南国（ベトナム中部）に渡り、海外貿易に従事、故国を見ることなく、生涯を終えた。

11 白粉町 [おしろいまち]

参宮街道筋から来迎寺門前までの約 210 メートルの町筋を指し、天正 16 年（1588）に松ヶ島より移ったという。18 世紀成立の地誌には、古く白粉屋三軒があったことに由来する町名であるが、今はその店も絶え、煎餅を売る店が多いと記す。

12 萱町 [かやまち]

来迎寺門より南、瓦町までの約 70 メートルの町筋を指す町名。18 世紀末成立の地誌には、萱を商う店屋のみからなっていた町であるためにこの名があるといい、最近では川井町と混同して当町の名称を知らぬものが多いと記す。現在は白粉町に属する。

13 大工町 【だいくまち】

天正 16 年（1588）、松ヶ島より移った町で、和歌山街道沿いの新町筋と白粉町筋とをつなぐ約 120 メートルの町筋を指す。近世の地誌には「往古より名にも似ず、大工は壺軒にて青染屋多かりし由」とあって紺屋が集まっていたらしい。現在は、新町に属する。

14 瓦町 【かわらまち】

常教寺門前辺りから南、三叉路までの約 140 メートルの町筋を指す町名。松阪城主古田氏の家臣の屋敷跡に寛文年間（1661～73）、瓦師の富島吉兵衛が尾張国から来住して以来、子孫が相続したため、その名があるという。現在は白粉町に属する。

15 鉄炮町 【てっぽうちょう】

城下南東隅の一画の町名。瓦町と大黒田町との間約 100 メートルの道筋と、それに並行する西側の道筋とを指す。近世の地誌は松阪城主古田氏の鉄炮組足軽屋敷の跡に、享保 2 年（1717）頃より家が多くなって成立した町という。現在は白粉町に属する。

16 桜屋町 【さくらやちょう】

三重信用金庫新町支店角の交差点から松阪駅方向約 75 メートルまでの和歌山街道筋の町名。かつて街角に祀られていた山神の小祠に、桜の大木があったことに由来するといひ、松阪城下建設当初は桶屋職人が集住していたといわれる。現在は新町に属する。

17 船江屋小路 【ふなえやしうじ】

新町天理教教会角の十字路から和歌山街道沿いの新町筋までの約 90 メートルの道筋を指す。小路名の由来は、かつて当地に「船江屋」を称する商家があったことによるといわれるが確証はない。中ほどの水路は新町と新座町との境界をなす。

18 亀屋小路 【かめやしうじ】

新座町筋と新町筋とをつなぐ約 100 メートルの小路の名称で、当地の一画にかつて「亀屋」を称する商家があったことに由来するという。中ほどの水路は概ね新町と新座町との境界をなす。中町と魚町との間にも同名の小路がある。

19 新町 【しんまち】

天正 16 年（1588）、松ヶ島より移った町といわれ、日野町交差点を起点にした和歌山街道沿いの約 500 メートルの町筋で、白粉町・萱町・瓦町に並行している。近世の地誌は煎茶問屋や古手屋の店が多いと記す。現在は、大工町・桜屋町も新町に属する。

20 新座町 【しんざまち】

新町と同心町と間の町筋で魚町筋から南へ約 450 メートルを指す。近世の地誌は松阪城主の古田氏の家臣の屋敷跡に成立した町と伝える。また、別の書は当町を火元とする元禄 3 年（1690）の大火の模様を記す。町は今も近世と同一の町として存続する。

21 同心町 【どうしんまち】

殿町のカトリック教会から三重同工会館辺りまでの道筋を指す町名。江戸時代には七石二人扶持を給せられた城代組・両役組・町奉行組同心が居住していた。今も生垣の連続する中に昔の武家屋敷が点在し、城下町らしい面影をとどめている。現在は殿町に属する。

22 日野町 【ひのまち】

中町から湊町までの間の参宮街道筋を指す町名。城下建設の際、近江国日野より商人を誘致して集住させたことに由来するといひ。近江の畳表・蚊帳や松阪縞を商う者が多かったと近世の地誌は記す。なお、松阪の一夜で有名な旅館新上屋は真向い辺りにあった。

23 願証寺小路 【がんしょうじしうじ】

常念寺小路から願証寺門前に至る道筋の名称。天正 18 年（1590）近江国日野より移った願証寺の名に由来する。現存する願証寺は浄土真宗高田派、一身田専修寺の末寺である。現在は日野町に属する。

24 美濃屋小路 【みのやしうじ】

参宮街道から魚町通りまで、約 75 メートルの道筋で、江戸時代初め頃の地図にその名が見える。街道と交差する中町の一画に本陣「美濃屋」があったことに由来する名称という。中ほどの水路は魚町と中町・日野町との境界をなす。

25 新規町 【しんぎまち】

魚町通りから殿町のカトリック教会辺りまでの道筋を指した町名で、江戸時代の地図にその名が見える。16 世紀末から 17 世紀初めまで松阪城主であった古田氏の家臣が新しく屋敷を構えた跡という。現在は魚町に属し、五丁目を称する。

26 魚町 [うおまち]

阪内川から和歌山街道までの道筋で、松ヶ島から移った。商人町として賑わい、現存する長谷川家は17世紀以来の商家である。また、本居宣長を生み、今も旧宅跡が残る。町名の通り、昭和初期には問屋を始め、魚屋が十軒ほどあった。

27 代官小路 [だいかんしょうじ]

市役所の交差点からほぼ一直線に殿町のカトリック教会前へ通じていた道筋であったが、今は第一小学校により分断されている。江戸時代、この道筋には代官所、奉行所など、紀州藩松阪領を統治する役所や与力・同心の屋敷が置かれていた。現在は殿町に属する。

28 亀屋小路 [かめやしゅうじ]

参宮街道から魚町通りまで、約70メートルの道筋で、17世紀の地図にその名が見える。現在のように道幅が広がったのは第二次大戦中の戦時疎開による。中ほどの水路は中町と魚町との境界をなす。なお、新座町と新町との間にも同名の小路がある。

29 中町 [なかまち]

城下建設の際、松ヶ島より移った町で肘折橋から日野町に至る参宮街道筋を指す町名。城下の中央にあたることに由来し、本陣を中心に宿場として発展し、多くの旅籠があったという。現在、街道は拡張整備されて、電光形に屈曲する街路は見られなくなった。

30 本町 [ほんまち]

天正16年(1588)に松ヶ島より移ってきた町で、北は阪内川、南は神道川までの参宮街道約280メートルの町筋をいう。江戸時代の地誌は江戸店を持つ三井、小津、伊豆倉等14人をあげ、木綿商人が多いと記す。現在は紺屋町・工屋町も含む。

31 河原町 [かわらまち]

阪内川右岸、魚町橋辺りより御厨橋辺りまでの約250メートルを指す町名。近世の地誌は阪内川の水難防止のために、往古、魚町の山神から御厨神社まで堤防を築き、並木を植え、家を建てたため河原町といったと記す。現在は本町・魚町に属する。

32 百足町 [むかでまち]

魚町橋たもと辺りから松阪農協松江支店までの約130メートルの道筋片側を指した町名。農協支店のある場所には毘沙門寺があり、毘沙門の使いが百足であると言われたことに町名の由来があると近世の地誌は記す。現在は西之庄町に属する。

33 西町 [にしまち]

大橋から川井町までの参宮街道約500メートルの道筋の町名。現在は極楽町も含む。近世の地誌は、西之庄町を省略して西町と呼ぶようになったと記し、また、堀江・山村・岡本・堤・小津といった江戸店持ちの有力商人が集住していたとも記す。

34 本川井町 [もとかわいまち]

西町境から西へ約210メートルの参宮街道筋を本川井町といい、火災よけのために「河井」を称したことに由来するという。『宝暦晰し』には「小松屋と言ふ遊女や」を記し、「常木屋芝居始メ・・・大当り」というように、本・新川井町辺りは賑やかな遊所であった。

35 新川井町 [しんかわいまち]

本川井町の西に続き、船江に至る約200メートルの参宮街道筋を江戸時代は新川井町といい、街道を山田へ向かう旅人にとっては松阪城下の玄関口であった。森壺仙の『宝暦晰し』の付図に「宿屋」三軒、「茶屋」二軒、「芝居小屋」一軒を記す。現在は川井町。

36 極楽町 [ごくらくちょう]

大橋のたもとの東、阪内川左岸堤防道路の分岐点から堤防に沿う約200メートルの道筋を指す。極器楽町と呼ばれていたことが町名の由来というし、また、極楽院という寺が所在していたためその寺名が町名になったともいわれる。現在は西町五丁目に属する。

37 博労町 [ばくろちょう]

天正16年(1588)に松ヶ島より移った町で、御厨橋から大手通りまでの約175メートルの町筋を指す。伝馬の飼育を義務づけられ、元和9年(1623)には31頭が常置されていたという。現在は本町に属し、町名は町内会名として使用されている。

38 外博労町 【そとばくろちょう】

博労町の東側、大手通りから御厨神社辺りまでの約 125 メートルの町筋をいう。正徳元年（1711）に水車屋が初めて建てて以来、徐々に町づくってきた町と、近世の地誌は伝える。現在は本町に属し、町名は町内会名として使用されている。

39 湯屋町 【ゆやまち】

紺屋町筋と博労町筋との約 35 メートルほどの大手通り筋を指した町名で、現在は本町に属するが町名は町内会名として使用されている。近世の地誌は当町に銭湯屋があったためにこの町名があると記す。元は大手町に属していたという。

40 紺屋町 【こんやまち】

天正 16 年（1588）に松ヶ島より移った町で、大手通りから阪内川までの道筋を指す。江戸時代初期には紺屋（染物業者）が集まっていて、昭和の初め頃にも数軒は営業していた。現在は本町に属する町名として残るが「こやまち」と通称される。

41 城坊小路 【じょうぼうのしょうじ】

矢下小路と大手町筋とを結ぶ全長 120 メートルの小路を指す。小路が松阪城の鬼門に当たるため、その鬼門除けとして小路の中ほど西側に密蔵院という真言宗の寺院が近世を通じて所在していた。小路名は、その寺を城坊とも称していたことに由来するといふ。

42 矢下小路 【やおろししょうじ】

参宮街道から正円寺前を通り、紺屋町筋までの道筋の名称で、矢下町とも称する。天正 16 年（1588）に松ヶ島より当地に移った正円寺は一志郡嬉野町矢下に開いた道場が発祥であり、矢下堂とも呼ばれて、その名が町名となった。現在は本町に属する。

43 大手町 【おおてまち】

天正 16 年（1588）に松ヶ島より移った町といわれ、城の大手口より紺屋町筋までの約 325 メートルの大手通り筋を指す。紀州侯が到着したときは大口よりこの町筋を通して城下へ入ったと近世の地誌は伝える。現在は本町に属する。

44 工屋町 【たくみやちょう】

天正 16 年（1588）に松ヶ島より移った町といわれ、継松寺門前から大手通りまでの道筋を指す。その名の通り、手に技術をもつ職人の集まっていた町であり、昭和初期には大工数軒があった。現在は本町に属する。

45 観音小路 【かんのんしょうじ】

参宮街道から継松寺前に至る約 95 メートルの道筋の名称で、継松寺に参詣する人々の通路であったことに由来する。継松寺は、古来、厄落とし観音として、世に聞こえ、慶長 17 年（1612）に松阪城主古田重治により石津町から現在の場所に移されたという。

46 慶聚院小路 【けいじゅいんしょうじ】

宝光院小路から観音小路までの約 110 メートルの道筋の名称。天正 17 年（1589）に松ヶ島より移った慶聚院の名に由来するといふ。慶聚院は、禅宗、津の龍津寺の末寺であったが、廃寺となっている。現在は中町に属する。

47 宝光院小路 【ほうこういんしょうじ】

参宮街道から職人町筋までの約 110 メートルの道筋の名称。天正 16 年（1588）松ヶ島より当地へ移された宝光院の名に由来するといふ。宝光院は、真言宗、松阪継松寺の末寺であったが廃寺となっている。現在は中町に属する。

48 職人町 【しょくにんまち】

近世の地誌は、当町は上、中、下の三町があり、上職人町は継松寺から法久寺まで、往古、呉器屋町といった中職人町は法久寺から清光寺まで、天正 16 年（1588）松ヶ島より移った下職人は清光寺から鍛冶町までをいうと記す。現在は中町に属する。

49 常念寺小路 【じょうねんじしょうじ】

参宮街道から常念寺前を通り、清光寺前までの約 110 メートルの道筋を指す名称。天正 17 年（1589）に松ヶ島より当地へ移された常念寺の名に由来する。常念寺は、浄土真宗高田派で、一身田専修寺の末寺である。現在は中町に属する。

50 矢川町 【やがわちょう】

駅前交差点から職人町筋までの約 120 メートルを指す町名。昔から当地が矢川と呼ばれていたことに由来するといふ。古くは遊所であったが元禄大火で絶えたこと、町裏では日野菜が栽培されていたことなどが近世の地誌には書かれている。現在は日野町に属する。